

1 実践の概要

テーマ	台風・大雨から身の安全を守るための行動について
外部指導者	秋田地方気象台 調査官 野村義浩 氏
実施日時	8月26日(水) 15時20分から17時まで
実施場所	秋田県立能代養護学校 会議室
参加者	職員48名 保護者 3名 地域住民 1名

2 実践内容

次第・講義内容等	時間 (分)	準備・留意事項等
<p>1 校長あいさつ</p> <p>2 講話 「台風・大雨から身を守るための行動について」</p> <p>(1) 台風・大雨について</p> <p>①台風の発生、大雨のメカニズムについて</p> <p>②台風・大雨の特徴ともたらす被害や災害について</p> <p>③情報の活用と災害から身を守る方法について</p> <p>台風の発生や大雨になるメカニズムについて、天気図をもとに説明があった。テレビやラジオ、インターネットなどで気象についての情報を収集し、大雨や暴風にならないうちに早めに準備することの重要性を知った。家庭では、非常持ち出しの準備、近隣の避難場所の確認と居住地域のハザードマップを活用し事前に被害が発生しやすいところの情報を把握して災害から身を守ることが大切である。</p> <p>秋田気象台のホームページでは気象に関するいろいろな情報があるので生かしてほしい。</p> <p>特別警報の発表を開始した。台風や集中豪雨、竜巻発生の情報に留意し、テレビやラジオ、インターネットで情報を収集することが大切である。無理な行動はせず、早めに避難する、など被害に遭わないように早めの対応をしてほしい。外出を控えるなど、安全を確保してほしい。</p> <p>(2) 特別警報について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別警報とは ・特別警報が発令されたら <p>(3) 竜巻・雷・強い雨～ナウキャストの利用と防災～</p> <p>竜巻が発生しやすい気象の場合、注意報や警報を発表している。沿岸部の竜巻は、黒い雲やひょうが降るなど気象が急変した場合におこることが多い。竜巻が発生したときは、頑丈な建物の中に避難する、1階部分で窓から離れるなどしてほしい。</p> <p>3 質疑応答</p> <p>4 教頭あいさつ</p>	<p>2</p> <p>60</p> <p>5</p> <p>3</p> <p>計70</p>	<p>台風シーズン前に開催することで災害に備えることができるように、日時を決定した。</p> <p>保護者や近隣の地域住民にも広く案内を配布した。</p> <p>【準備物】 スクリーン、プロジェクター、マイク、テーブル、いす</p> <p>【事前打ち合わせ】 台風・大雨が発生するメカニズムと身を守る方法の他、地域の特徴として発生が予想される竜巻と被害に遭わないためのポイントについても触れてほしいと依頼した。また、学校、家庭でできる防災対策のポイントを簡潔に教えてほしいことを伝えた。</p> <p>参加者である本校職員と保護者、地域の方々が災害発生前にどのような行動をすべきか、知り、その後、児童生徒に対してどのように指導していくとよいか考えていく。</p>

3 参加者の感想

<p>職 員</p>	<p>秋田県では昨年度台風や大雨による甚大な被害があったこと、最近では広島での災害もあったことで大変関心をもって講話をきいた。台風や大雨の発生メカニズムや特徴、災害から身を守る方法についてスライドとともに分かりやすい説明であった。テレビやラジオ、インターネットなどの情報を収集し、災害に遭わないように早めに対策を講じることが大切であることを再認識した。</p>
<p>保 護 者</p>	<p>近年、災害が多く、いつどんな時に自分たちの身に降りかかるかわからないという不安もあり、講話を聴いてみようと思い参加した。台風や竜巻などが起こる原因などを勉強させてもらい、天気図などにも興味をもつことができた。一番大事なことは、災害が起こるかもしれない時のための準備を十分にしておくということを改めて感じることができた。</p>

4 成果と課題

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションでスライドとともに、台風や大雨の発生メカニズムや特徴、身を守る方法について具体的に分かりやすく説明していただきよかった。台風や大雨による被害の特徴と災害に遭わないようにするためのポイントについて知ることができ防災意識が高まった。 ・寄宿舎では台風や大雨、強風などで深夜に停電し学校機能が停止した場合の紙上シミュレーションを行い、想定した課題を洗い出し、解決するための方策を話し合うことができた。 ・大雨や暴風のため通学に困難をきたすと予想される場合、天候が変わる前に保護者に一斉メール配信を行い注意喚起すると同時に安全に万全を期すように対応している。特に休業日の連絡については、かかる時間や連絡漏れなど把握し対応している。
<p>課 題</p>	<p>本校の立地場所は沿岸や河川より離れており、能代市の「洪水ハザードマップ」上、危険箇所ではないが、市内及び近隣の市町村から通学している児童生徒や寄宿舎利用児童生徒の状況を考慮し、災害に備えて次のことについて見直しを図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) スクールバス運行時災害が発生した場合の緊急対応についての見直しと学校、家庭との連絡体制について見直しを図る。 (2) 帰宅困難になった場合の児童生徒の待機方法について日中、夜間の対応を細部にわたりシミュレーションしておく。また、家庭との引き渡し訓練を実施する。 (3) 災害時における近隣の避難所や障害者支援施設、自治会との連携を強化する。



講話「台風・大雨から身を守るための行動について」



深夜に長時間停電した場合の
対応策についての話し合い

